

## ■さらに区と区民の協働を

5年目を迎える区政改革懇談会の現状は？ 公募委員の意気込みを大切に育て、区民参画をすすめる一つの方法として、公募委員が政策評価をすることもいいのではないか。

区：課題も多いと思う。区と区民との協働は重要という認識で取り組む。

「自治基本条例の制定をめざす」と区は掲げているが、制定の過程が大切。さらに区と区民の協働をすすめてほしい。

区：他の自治体の例をみても、つくればいいだけのものではないと考える。研究を進める。

## ■さらに非常勤の職員待遇改善を！ 役割分担も明確に

正規職員と非常勤職員では、防災に関する取り組み方が違うのではないか。防災訓練をするにしても、ひろば館などは正規職員は配置されておらず、非常勤職員しかいないのだが…。

区：非常勤職員は災害が起こったときの非常徴集体制には入らないが、勤務時間中は常勤職員と同じ位置づけである。

## ■心のバリアフリーをめざそう

障がい者の作業所をつくるにあたって近隣から「障がい者は何をするかわからないから反対」という意見が出ていると聞く。また、障がい児のいる学校は避けて入学先を決める傾向があるのも、差別実態を示すものである。日本では、分離教育の歴史が長く、障がい者が身近にいないと差別意識を持ちやすい。住民理解を得るためにさらに努力を重ねてほしい。

障がい児のいる学校へ行かないという選択を避けるためにも、もっと丁寧に幼稚園保育園で、障がい児への支援を行うべきである。一緒には学べないと保護者が思ってしまう保育・教育の質を検証しなければならない。教員、保育者などの能力向上と支援体制の充実が必要ではないか。

障がい者手帳を取得していなくても人間関係などがうまくいかず、何らかの支援がないと就労できないとか、ひきこもりとなっている若者への支援も必要ではないか。

区：たんぼぼセンターが関係部署と連携を持ち、支援を充実させたい。



## ■不登校、高校中退など問題を抱える子どもたちへの支援を スクールソーシャルワーカーの配置を



不登校や高校中退の子どもたちのその後の進路は把握できているのか。中学校や地域が支援する必要があるのではないか。スクールカウンセラーという、子どもの心の相談相手だけでなく、家庭や地域の関係性に注目して活動するスクールソーシャルワーカーの配置が必要ではないか。

区：おおよそ把握している。現在、荒川区では、各校にスクールカウンセラーが週1日配置されている。学校で子どもたちの相談相手になるほか、家庭訪問なども行う。スクールソーシャルワーカーの導入を検討したい。